



# 磨光

令和7年9月22日(月)  
三豊市立本山小学校  
No. 13  
発行者：中田 祐二

修学旅行のバスの中、「私は誰?」クイズをしていました。

「この人の好きな食べ物は『ドリア』です。」

「この人の好きな動物は『サメ』です。」

このような些細なヒントを聞いただけで「分かった!」と見事正答する子どもたち。互いをよく知り合っているのだと感心しました。

今年は、修学旅行で万博へ行く学校も多くあります。それをうらやましがる声もちらほらと聞こえてきましたが、「どこへ行くか」よりも「誰と行くか」が大事。6年生全員が参加した修学旅行記です。



## 修学旅行記 —今こそ出発点—



修学旅行の道中、最も厳かな雰囲気に包まれたのは京都大仙院の座禅体験です。集中力を保つため、和尚さんが警策でピシャリと打つ。座禅でよく目にする光景です。

今回の座禅体験でも、希望者はこの警策体験ができました。しかし、モデルとなった私を見て恐れをなしたのか、希望したのは、ただ一人でした。この子は、以前の陸上大会で、私が「100m走のスタートラインに立った時に何を考えるの?」と尋ねた時に、「無(む)!」と答えた子です。きっとこの日も無の境地を求めていたのでしょう。

座禅の後、和尚さんの法話を拝聴しました。

和尚さん曰く。座禅を組むのは、「判断(決めつけ)の眼鏡を外す」ためとのことです。例えば、方形にならんだ九つの点を4本の線で結ぼうとする時、どのようにするか。これは「四角の枠の中で行う」という「先入観=判断」を取り払わないとできません(答えは右写真参照)。子どもたちからは、「それ、あり?」という声がもれましたが、それこそが「判断(決めつけ)」です。

そして私も一つ、してかしてしまいました。この座禅体験の後、和尚さんと会話する中のことです。

私が、「これまで、座禅をしている人の心の乱れを和尚さんが察して警策で打つものと思っていた。和尚さんは『あ、この人は今、余計なことを考えている』と分かるのでしょうか?」と尋ねると、「そんなことはありません。それが『判断』というやつです。」とピシャリとやられました。警策で打たれるより痛かったです。



## 到着式は出発式

到着式で、担任が子どもたちに「今が出発点」と話しました。これは、大仙院で出会った尾関宗園和尚の言葉です。

もう修学旅行は過去の思い出となりました。この大切な思い出を懐かしみつつ、今日からは、修学旅行を超える思い出づくりの始まりです。あと半年、「今」を大切に。

今この幸せを喜ぶこともなく  
いつどこで幸せになれるか  
この喜びをもとに全力で進めよう  
わたくし自身の将来は  
今この瞬間 ここにある  
今ここで頑張らずにいつ頑張る  
(尾関宗園「今こそ出発点」より)